

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		千葉 茂		〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地	
学校法人 片柳学園		昭和25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111	
目的	テレビ、映画、映像コンテンツを始め、これからの映像業界をリードする「基礎力、技術力、人間力」を身に付けた人材を輩出することを目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士
文化・教養	芸術専門課程		放送・映画科		平成21年文部科学大臣告示第22号		-
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,710	510	0	1,470	0	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
320 人		424 人		8 人	33 人		41 人
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価の方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定		
長期休み	■学年始: 4月1日～ ■夏 季: 8月3日～9月4日 ■冬 季: 12月23日～1月6日 ■学年末: 3月21日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品発表会、地域行事の撮影等、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 NHKメディアテクノロジー、テイクシステムズ、日企、TBSテックス、フジメディアテクノロジー、ヌーベルバーグ、他。放送局系列技術会社、番組制作会社。 ■就職率※1 : 89.5 % ■卒業者に占める就職者の割合※2 : 82.2 % ■その他 大学進学、家業を継ぐ、デビュー(俳優、芸人他) (平成 26 年度卒業者に関する平成27年5月1日 時点の情報)			主な資格・検定等	・ビジネス著作権検定 ・ビジネス能力検定ジョブパス ・映像音響処理技術者資格 ・色彩検定 ・Pro Tools技術認定資格		
中途退学の現状	■中途退学者 28 名 ■中退率 5.8 % 平成26年4月1日 在学者 485 名 (平成26年4月1日 入学者を含む) 平成27年3月31日 在学者 457 名 (平成27年3月31日 卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ・進路変更(他業界への就職、大学進学)による、退学。 ・うつ病の治療により、通学が困難になり退学。 ・統合失調症等の精神疾患により通学が不可能となり退学。 ・てんかん、難病指定の病気発症により、治療や手術が必要となり退学。 ・保護者の学費支払能力喪失による退学。 ■中退防止のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。						
ホームページ	URL: http://www.neec.ac.jp/						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

将来的に映像業界をリードする人材を輩出することを学科の目的とし、卒業後スムーズに現場作業に移行できる人材の輩出、次に常に最新で且つ長期間使用される機材の選定を行う目的において、的確な助言を与えていただくことを連携の方針に据える。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
渡久山 健	一般社団法人日本映画テレビ技術協会
西 邦夫	株式会社 イメージスタジオ・イチマルキュウ
菊池 浩	株式会社 アフロディーテ 代表取締役
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長
佐藤 充	日本工学院専門学校 クリエイターズカレッジ カレッジ長
高澤 敦博	日本工学院専門学校 クリエイターズカレッジ 放送・映画科 科長
上遠野 順子	日本工学院専門学校 クリエイターズカレッジ 放送・映画科 主任
只埜 洋樹	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 次長

(開催日時)

第1回 平成27年1月19日 17:00～18:00 18:30～19:00

第2回 平成27年9月18日 16:00～17:00 17:30～18:00

第3回 平成28年3月(開催予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

映像制作の基本技術を連携企業の講師から教授してもらうことと映像業界も技術革新の進歩が著しく、業界のスキル標準まで学生の技術力を高めてもらうことを目的とする。また、技術だけではなく実務者である連携企業の講師から学生に対して業界特有の現場意識についても教授してもらうことを目的としている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
放送・映画演習1	カメラ、照明、音声、編集、制作、MA、美術と分野を分け機材知識と操作技術等を学ぶ。就職へ向け即戦力になる技術力の習得を目的とする。	株式会社 コスモ・スペース
放送・映画演習2	カメラ、照明、音声、編集、制作、MA、美術と分野を分け機材知識と操作技術等を学ぶ。就職へ向け即戦力になる技術力の習得を目的とする。	株式会社 コスモ・スペース

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

最新の高度な技術と豊かな発想力、異なる職種や異文化についても理解を深め協調していく姿勢を持った人材を育成していくことが重要と考える。また、現代の多様な学生達への対応力や理解力を養うため教員研修の実施が不可欠と位置付け

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 専務理事
藤本 昌之	株式会社エンドレスエコー 代表取締役社長
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会)教育事業部 教育推進グループ セクションチーフ
前原 恵子	公益社団 全国経理教育協会 作問委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長
高橋 修	学校法人上野塾 東京実業高等学校 キャリアセンター長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL

:http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/8964/26_kobetsuhyoka_kmt.pdf

http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/8964/27_kankeisyahyoka_kmt.pdf

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/8964/27_opendeata_kmt.pdf

授業科目等の概要

(芸術専門課程 放送・映画科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			一般教養A 1	社会人として必要なビジネスマナー、一般常識を身につけ、就職対策、検定対策を学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
○			一般教養A 2		1・後	15	1	○			○		○		
○			一般教養B 1	映像における放送史、映画史、また時事問題などを学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
○			一般教養B 2		1・後	15	1	○			○		○		
○			一般教養C 1	クリエイターに必要な言語、著作権、また基本的なPCソフトなどを学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
○			一般教養C 2		1・後	15	1	○			○		○		
○			キャリアデザイン1	就職・デビューなど進路に関わる知識習得・情報収集などを学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
○			キャリアデザイン2		1・後	15	1	○			○		○		
○			放送映画リテラシーA 1	TV、映画、舞台におけるカメラ、音声、照明、編集、制作、美術などの基礎的知識を学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
○			放送映画リテラシーA 2		1・後	15	1	○			○			○	
○			放送映画リテラシーB 1		1・前	15	1	○			○			○	
○			放送映画リテラシーB 2		1・後	15	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(芸術専門課程 放送・映画科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			放送映画リテラシーC1	TV、映画、舞台におけるカメラ、音声、照明、編集、制作、美術などの基礎的知識を学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
○			放送映画リテラシーC2		1・後	15	1	○			○			○	
○			映像技術1	「映画」「テレビ」「個人映像」「美術製作」など映像表現のための基礎知識を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			映像技術2		1・後	30	2	○			○			○	
○			映像制作1	映像鑑賞をすることにより、作品制作のテクニックを学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			映像制作2		1・後	30	2	○			○			○	
○			放送映画演習1	各コースやテーマ別に実習を通して映像制作の基礎を修得する。	1・前	240	8		△	○	○			○	○
○			放送映画演習2		1・後	240	8		△	○	○			○	○
○			番組制作1	「作品を作る」という目的で、実践的に映像制作を学びます。	1・前	60	2			○	○			○	
○			番組制作2		1・後	60	2			○	○			○	
		○	ワークショップ1	クリエイターのためのテーマごとの講座です。	1・前	30	1			○	○			○	
		○	ワークショップ2		1・後	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(芸術専門課程 放送・映画科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザイン3	就職・デビューなど進路に関わる知識習得・情報収集などを学びます。	2・前	15	1	○			○		○		
○			キャリアデザイン4		2・後	15	1	○			○		○		
○			放送映画リテラシーD1	TV、映画にとどまらない作品研究を行い映像を学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○			放送映画リテラシーD2		2・後	15	1	○			○			○	
○			放送映画リテラシーE1	「美」「心理」という視点からメディアコミュニケーション全般を学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○			放送映画リテラシーE2		2・後	15	1	○			○			○	
○			放送映画リテラシーF1	映像作品のドラマ、バラエティ、ドキュメンタリーなど構成と演出について学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○			放送映画リテラシーF2		2・後	15	1	○			○			○	
○			映像技術3	映像制作の応用技術を学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
○			映像技術4	「作品を作る」という目的で、実践的に映像制作を学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
○			放送映画演習3	各コースやテーマ別に実習を通して映像制作を行います。	2・前	240	8		△	○	○			○	

授業科目等の概要

(芸術専門課程 放送・映画科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			番組制作3	映像制作の応用技術を学びます。	2・前	60	2			○	○			○	
○			番組制作4		2・後	60	2			○	○			○	
		○	ワークショップ3	クリエイターのためのテーマごとの講座です。	2・前	30	1			○	○			○	
		○	ワークショップ4		2・後	30	1			○	○			○	
		○	インターンシップ	企業が実施する研修に参加し、現場作業を体験します。	2・通	60	2			○		○	○		
		○	特別講義1	様々なジャンルの講師による特別講義を行います。	2・通	30	1			○	○		○		
		○	特別講義2		2・通	30	1			○	○		○		
○			卒業制作	2年間の集大成とし、映像作品または舞台の制作を行います。	2・後	270	9			○	○		○		
合計			43 科目			1,980 単位時間 (83 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目880時間(30単位)取得および選択科目を830時間(22単位)以上取得し、合計1,710時間(52単位)以上取得すること	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。